

奇合之卷

全

和装本

ケ 5

44

119







大坪本流奇合之卷

- 父母之手綱事天地添返シ氏云驛馬疾馬專流  
 入馬言左ノ手綱シ前輪ノ爪ニ梓之左ノ手ニシ  
 前輪ニ取添右ノ手綱シ高取繪<sup>會</sup>親可乗ナリ
- 遠事之事驛馬ニ可也左ノ手綱シ右へ取右ノ手  
 綱シ左へ取引手シ口ノ内ニテ遠可乗
- 驛馬シハ<sup>枝</sup>放庭ニテ可乗地何ニモ静ニ乗上  
 心シ静メテ荒立ヘカラス廣庭ニテ乗時ハ



筑地ナトニ頭ヲ引向テ折々テ静ニ可乗  
翔出ル特物ニ流ハ添方ハ折也馬場誥  
个々ウハ時々静ニ馳シモ乗ハシ

- 時花テ書ク請又ニコクシ割テ拍へ可乗  
或ハ片手綱シ上テ眼ニ懸ル様ニシテモ乗也  
○ 心過テ出口荒キ馬ツハ其場ニテ馳シ乗向  
敷ト思ヒ躍メキニ鞍ノ上ヲ踊ル様ニシテ  
躍メキニ入テ其後馬ノ心ヨリ拍子ニ可移也

- 過物翔破ル時斤方ノ手綱ヲ高ク斤方  
ノ手綱ハ下テ手綱高方ノ鑿踏出シテ拍  
ル也若斤口ニ書ク凌シ頭ヲ遣行ハ行ニ方  
シトテ手綱ヲ可取也左右凡ニ同前  
○ 過物ヲ謹入ルニハ挾庭ヲ吉トス其後ハ廣  
庭ニテ乗テモ不苦扱キ所ハ馬餘ル事  
ナシ亦輪作ル夏ハ廣キヨリ扶ク可乗  
扶キヨリ廣ク乗夏モアリ馬身ニ繩



廻レハ乗也乗様ハ内ノ手綱ハ後々トセシ下  
 テ取外ノ手綱ハ鞍ノ根ニ取テ平首ニ押添内  
 ノ鏡越外ノ鏡ハ臥テ左右へ折替折替輪作  
 乗ヘシ馬場テ遠馳ヲスル事繩廻レノ徳也  
 ○ 返シ送ル手綱過物口強ク後足キカヌニ可也翔  
 折小翔廻レ乗時廻ス所テ退ラカスシ之也  
 ○ 居折之事翔出シテ居替折テ翔出シ亦居テ  
 角ノ口ヲ可引也

○ 翔折之事翔出シテ足シ遊ス翔折  
 ○ 々々左右へ折替乗シ之云ナリ  
 ○ 馬シ折変左へ折時ハ右ノ手綱シ立同  
 右ノ鏡シ強ク踏出し身シ左へ撥り  
 右ノ目形之骨シ目尻ニ懸テ身シ鞍ノ  
 上ニ直ニ置左ノ股シ左ノ上敷ニ置左ノ手  
 綱シ仰ムケ同左ノ鏡ヲ大ハ文字ニ踏南ク  
 様ニ乗ハ後足シ輕ク遣ヒテ能折ル也右



○ 同意也猶其德對馬問答ニ見ヘタリ  
 ○ 取スノ事折方ノ手綱ヲ行子ニ取添テ  
 手綱ヲ諸口ニ絡テ取折替々々強ク可折  
 頭ヲ疼シ喜渡スニハ左ヘ折ハ喜ノ鏡シ同口  
 脇ニ添テ折也右ヘ折モ同意也外ノ手  
 綱下諾テ折ヘシ角ノ口強クハ腰ト凡ニ  
 可折但シ馬ニ依セロハ弱キ所モナク強  
 キ所モナク乗度物也常ニ參ノ乗ハ吾ノ

○ ノ口損スヘシ此手綱カ一強口シ入ルニ可ナリ  
 ○ 口強キ馬色々折トモ廻ラヌシハ左ノ耳シ  
 ○ 右ノ手ニテ取耳ノ穴シ左ノ指ニテ強ク可指又  
 算カ鞭ナトニテ耳ノ根シ強ク可指也右モ目前  
 ○ 馬ニヨリ斤口ニテハアラスシテ後足利カ  
 ○ ス方ヘ廻リカヌル馬可有也口ニ掃ス猪  
 膝ノ鞭シキヘシ烏頭ノ上シ折様ニキ事也  
 ○ 赤勝テ足利カヌ馬シハ人シ乗テ口シ



取利カ又方へ細々廻レ猪膝ヲ折へし  
口ヲ指足シ乗ト国忠ノ是ソ云レ也  
○ 同後足利カスシテ廻リ兼ル馬シハ首  
シ引廻シサマニ手細シ斤手ニ取  
テ見破リノ鞭シ可也左右同前  
○ 看疾シ廻ラヌ馬ニ諸手細ニカシ  
入テ鏡シ強ク踏心ニテ廻スヘシ  
○ 首強クシテ廻ラヌ馬シハ書ニ凱々

ト當リ折廻スヘシ裏ニテ書ヲ落ス事事也  
○ 見切上卷之手廻レ口ニ可也父母ノ手  
廻レテ返之返ラヌ馬シハ手シ開  
キ脇へ強ク切返ス也夫ニモ廻ラヌ  
○ 時ハ上へ切々サル方一廻ヌヘシ  
○ 不及之事隔ニテ拘ス馬ニ可也揚末ニ  
テ馬シ居納少シ立留ラヌ也鞭ヲ廻スヘシ  
○ ホ口く返之事隔口ニ可也廻リカ子ハ



○ 外ノ鏡ニテク口くト一ツモニツモ可當ナリ  
 ○ 廻又方ハ廻ラスレテ廻サス方ハ廻ル馬  
 ○ 有廻ラヌ方ノ口ニ當リ同廻テ又方ハ廻スヘ  
 ○ 廻ラヌ馬シ強ク折時馬倒ル支可有級ハ左  
 へ倒ル時ハ左ノ鏡シ蹴出し右へ可下立鏡  
 弱ク蹴出セハ必ス馬ニ敷ル、物也右モ同折  
 物テ折ノ手綱ハ強キ曲ニ用ル故倒  
 支能シ能ク可乗見也

○ 同下立之事馬左へ倒ル時ハ足右へ成其足シ  
 踏下シ下立也右へ倒ル時モ同前馬前  
 一卧ハ手綱ヲ指定ケテ左ノ手ニテ鞞ノ  
 紐遠シ取右ノ鏡シ蹴放シ其足シ馬ノ左  
 へ引取テ三頭脇へ下立也後へ倒ル時ハ鞞  
 シ取右ノ手ニテ頭中シ押へ頭ハ下立  
 也蓬茸ノ鬚シ左右ニテ取下立モ同意也  
 ○ 人引馬之事左ノ手ニ片手綱ニ取口ニ當



○ 後輪ニ乗左ノ鐘ヲ強ク踏行前ノ鞭ヲ可ク止ル也

○ 夕諾手綱之事ハ引馬ニ用引時鞭ヲ按鞭前シ左ノ手綱ニ取添目ニ引掛搦止ルナリ

○ 亦馬目ハ鞭前ノ指入ル事モ可也自然鞭ヲ帶セス時ハ算カ肩成ル可用也

○ 夕煙手綱之右同馬ニ用引時手綱ノ曲リヲ馬ノ服ニ步掛引シメ可留也

○ 諸諾手綱之事右同馬ニ用引時左ノ手ニ引ノ韉ノ房ヨリ上シ取左ノ身ヲ撥リ

○ 後輪ニ乗左ノ鐘ヲ起右ノ鐘ヲ臥テ口ニ常リ留ヘシ左右得キニ可依ナリ

○ 右同人引馬左ニ當レハ右ニ廻ル其時一文字正ル也

○ 橋諾手綱之事右同馬ニ用引ルハ時書ノ橋全ク取テ折返留ヘシ



○ 摩上袖裏ノ手廻下口ニテ 引馬ニ用  
 前輪ニ懸リテ手ヲ返シ摩上折付留ヘ  
 シ但シ下悍ノ馬ニハ後輪ニ乗ヘシ  
 ○ 空敷手廻之事引馬ニ吉藤ノ切口一寸計成  
 シ長サ七寸五分ニ切テ前ヲ四五分敲本  
 一寸ニ細繩ヲ付ハシ結ニ付敲キタルカシ  
 候ハ入テ乗ヘシ馬ニ依テ長ハ短クテモ吉  
 ○ 口クルト云ハ人引馬ヲ曰ハ内シ切サキ

○ 置ハ乗時疵ニ當リ 痛故ニ人引変ナシ  
 然レ以後直ル事ナシ  
 ○ 納手廻振首固スレテ 引馬ニ用手ツ  
 鞍際ニ下シ小指ニカシ添テ脇へ引張様  
 ニ拘ハ乗也 鞍へ手廻引通シ乗事モ有リ  
 ○ 上臈手廻事ハ之外ニ出ル馬ニ可也 腕  
 シ指延テ細詰テ高ク取事シ 咽ニ當  
 一寸多ノ如ク拍子能留ヘレ彼俾用云或



書鼻ノ上ニハシ扱右ハ其ノ終鼻ニ當テハ  
可留也

○ 算度シテ手綱右同馬ニ用後輪ニ乗左ノ  
鑿シ起石ノ手綱ヲ左ハ越書ヲ鼻サハシニ  
掛左右ノ手綱シ右ノ手ニ一ツニ取頭ヲ左  
ハ折付止ル也亦切手綱モ同意手綱ノ曲リ  
シ坑ニテ掛引シメ止ル事モアリ

○ 手綱解タル時ハ解タル方ノ鞆ノ房ソ

取テ可止或手綱切書ハ扱タル時ハ割リ  
取テ其終兩手ニテ首ニ引掛止也手綱  
ノ切タル餘リヲ首ニテ掛咽シ引レタル度  
モアリ

書ナク弦折ニテ出ル時ハ割リ解テ鼻  
サハラニ掛テ止ル也亦右ノ手ニテ止髪  
ヲ取テ下テ左ノ手ニテ坑シ引シメ可止也  
押付手綱之事門ノ内家ノ内ハ引



入ラル、時可也門ノ冠木軒ナトハ手  
綱ヲ引掛押付可止若止ラスハ馬計可通也  
○ 巖石一川入レテ行時ハ其前ニテ馬ヲ乗  
倒レ可止片手綱ヲ升越鼻ノ上ハ掛諸手ニテ  
強ク返スヘシ馬倒ル也諸川井手綱モ  
可也然モ強クシテ止ラスハ可下立ナリ  
右ノ手ニテ鞆ノ組遠シ可取辟ニテ  
頭ヲ押カニシテ左ノ足ヲ右ハ越乗人

ノ顔シ馬ノ尻ノ方ハ向テ可下立ナリ  
○ 糸ニ替ル手綱ノ事平首痔片口ニテ翔  
出シ止ラヌ馬ニ可也左ハ頭ヲ痔レ拍子  
遠ハト痔ル方ノ手綱ヲ鼻ヲハラニ引  
當可止強ク頭ヲ投振馬ハ乗悪キ物也  
○ 唐ノ舎ツ強キ方ハ引出シ弱キ方ノ口  
ニ鏡ヲ引詰常ノ一歩ノ如ク止ルナリ  
拘之事



○ 中拘之事

口傳

○ 大拘之事

口傳

○ 高屏風之事

口傳

○ 一筋手綱之事

口傳

○ 山落之手廻退ヲ又馬ニ可也口シ引

ス免サヌ拘ヘテ氣鳴シシテ鬼面ノ

○ 鞭ヲ可キ

○ 退ラヌ馬ノ事左右ノ手綱ヲ取遠テ

立透上口シ搖上下ヘモ引流レ鞭持タル者

シ左右ニ置山家山落ノ鞭ヲ次弟下リ

ニ可キ其後目前へ鞭ノ振見也上

口ニ當リテ可退也

○ 十文字手綱下口降キ馬ニ舌手廻シ

手ノ裏ニテ十文字ニ取遠片手ニ持テ

可乗手廻ノ曲リテ兩方ニ可出也

口傳



山越手綱右同馬ニ吉手綱シ右ノ手  
 ニ十文字ニ取山形ニ引掛前輪ノ内ノ  
 上敷ニ右ノ手シ押付山形ニ手綱シ  
 関セテ可乗也第一ヲ持テ乗時吉  
 ○縁シ手綱口強キ馬ニ可也左右ノ手  
 綱取遠テ拘ル也手綱ニカ有テ餘ル事  
 ナシ指口強ニ鬚ノ中ニテ引遠ハ鞞ノ手  
 形一左右ナカラ引掛前輪ノ内ニテモ遠

テ拘シ是ヲニ縁ノ手綱ト云也亦頭根強  
 クシテ曲ル馬シハ曲ル方ノ手綱ヲ遠テ  
 手形ニ引掛シ乗也片縁リト云手綱也  
 ○遣手綱角ノ口引時馬強クシテ手ノ裏シ  
 候時手綱ヲ剝ニ取添カニシテ可拘是  
 亦片口強クハ其方ノ手綱計ヲナカキ  
 へ引通強持テ弱キ方ノ手綱止テ引也  
 ○同強キ方ノ手綱ヲ鞞爪ニ挟シ折廻レテモ可也



○庭ニテ 口引時狂フ馬ハ 如何ニモ静ニ  
乗付ヘシ 其後早クモ乗ヘシ 如以譚  
テハ狂フ更止也 早足モ出ル者ナリ  
髪中引之事 割日強キ馬ニ乗時前  
へ乗懸リ 手促シ 頭ノ下一強ク引テ  
乗ヘシ

○尻足中骨前足骨 着トモニ掛合テ強  
キ馬シハ口ニ強ク當ルヘカラス小庭

ニテ 翔廻シテ 乗四足中骨ヲ乗知ケ  
上口ニ懸リテ 揺上角ノ口ハ引納退ク口  
シ常ニ可乗退口出来口 趣能足解クル者  
也 退口ナキ馬ハ 惡敷退口ハ馬ノ心ヲ知  
ケル為也 然レ一節ニ心得退カスモ惡シク  
強キ馬ハ 重ク退カシテモ不若遠道ナト  
乗ニ退カセハ 静ニテ又事存心得ヘシ  
○強馬出口強ク居リ 口弱キ馬シハ 鞅シ



○ 後メ馳ツレハテ 鐘ヲ強ク鞞シモ強ク乗  
ヘシ必ス出口弱ク居リ口能成者ナリ

○ 強馬モ弱馬ニモ逆ノ事不可有 操合ル也

○ 程ヲ乗ト云事常ノ馬ヲ 餘リ強庭テ

乗ハ骨ヲ折ニヨリ口川レタル事ツ志

レスシテ 惡ケレハ馬根氣ニ隨テ可乗也

○ 汗流ス程乗馬モ在但シ馬ニ依シ汗

カキ其汗入ノ亦汗カク程乗馬モ有

ハシ是モ根氣ニヨリテ可乗ナリ

○ 遣引手綱之事 背前ヲ反レ走ルニ可也

手前ヲ下テ前輪ヲ強タシメ拘ユル也

○ 乗走スル馬ヲ八月返シテモ乗ニ亦

專ノ川手ヲ割ニ取添テ馬ノ頸ヲ折籠テ可乗

○ 乗走ノ内ニテ頭ヲ曲テ行馬ニ入曲ル方ノ

口ニ細繩ヲ付其方ノ鞞ニ結付テ翔折ヲ

可乗也亦水車ニ玉輪ト廻シ馬ニ利ヲ



サセス強ク特目ニ具後軋子ニ可棄  
 ○ 退リ馬ノ事退ル時左右ハ斤廻レ廻  
 ○ ニテ可也込ラ強ク利シナサハ櫻狩ノ鞭  
 手登ノ鞭ヲサテ指竅ケ跑レハ行也亦  
 ○ 廻シテ後少レ伏メテ肩カ鞭了トニテ  
 西懸ノ下ヲ掩レハ歩シ出ルナリ  
 ○ 右同廣場ナラハ退ル時猶退ラカス也馬  
 退屈シタル所ヲ跑リ立テ亦登ノ鞭ヲ

○ 歩ヘシ好カ如クト云手綱也可秘  
 ○ 退リ馬ハ棄又前ニ成程退カスハ亦棄  
 出シテ退ス前ニ退カス莫モ可ナリ  
 ○ 諸切手綱退リ馬亦ハ場中ニテ立寄  
 ○ ルニ可也手ヲ返シ上ハ切其從下ハ切  
 引シメ後輪ニ懸リ押出シ可棄也  
 ○ 下違手綱澄馬ニ可也斤手綱ヲ鞭ニ取  
 添斤手綱ヲハ引上堅メハシ強踏ハ手



- 綱ノ曲リシヲ袂ク取頭ニ押付換リ返ス也
- 笠懸ノ場ニテアリ時澄ル馬シハ左右ノ鞆  
シ強ク誥テ乗ヘシ亦細繩テロシ割テ可也
- 揚リ馬之事揚ル時手趣ニ隨ヒ折下ル様  
ニシテ手綱ニチシ添テ鞆カセオシテ取テ  
着シ折ヘシ鞆取ス方ノ鐘請テ踏ヘ  
シ真向ニ乗ハリ倒ス也可心得者ナリ
- 赤寄鞆手綱切馬ニ可也切ル方ノ手綱

- シ下切ス方シ女レ上鞆ハ切ル方一乗懸リ  
強ク挫ルヘシ鐘切ル方シ一文字ニ踏切方
- シ文字踏ヘシ向馬過ルモ右ノ如ク心得ヘシ
- 同馬場切レノ馬シハ切ル所ニテ切ル方一斤  
廻シ廻シテ面影ノ鞭ヲ赤其後指穴ケラ  
切ル方ノ手綱ニ鞭ヲ取添テ可乗ナリ
- 大波手綱之事着シ出レ行馬ニ可也出  
ス方ノ手綱ト鐘同意ニ當合乗ヘシ



- 痿馬之変九一痿ハ右ノ手綱ヲ引詰九  
ノ頭ヲ拳ニテ押直シタ右ハ痿ハ右ノ頭ニ  
當ヘシ同痿ル方ノ口ニモ當ルナリ
- 首中痿タル馬シハ外ノ手廻シ首中ニ  
押當テ大輪ニ廻シテ乗ヘシ
- 頭ヲ左右ヘ投ルニハ投ヌ方ノ手綱當リ  
取テ投ヌ方ノ手綱下テ取也亦片  
手綱ニ取テ投ル方ノ專ノ鏡ヲ鞭ニテ

- 歩ヘシ退カス時強達ハ其方ノ角台ヲ引  
乗人ノ膝ヲ屏垣ナトニ指付ル馬シハ  
頬ヲ屏ニ引當此方ヨリ馬ヲ強ク指付  
ヘシ垣モ同前
- 千金香子綱之変而曲ニ可也少シ腕  
入所ニテ乗能ハ草臥カレテ引倒レ鼻  
ノ息袋ヲ握リ息ニ三度次セ越レ四  
五度モ如クシテ乗ヘシカレモ終又程ニ



ナシテモ亦ニ三日モ過テ右ノ通り幸ヒ

○ 君カ袖ト云テ獨物ヲ見ル馬ニ吉神カ

病ニテ馬ノ眼シ閉キ通スヘシ

○ 粘口ノ馬ニ手綱十ニト云ヘ凡コシリ切置

ハ書口ニ當ルニヨリ少シハ棄ル者ナリ

○ 遠引手綱場未ニテ馬怠ム時テシ一所ニ

高後輪ニ居懸リ角ク當ヘシ

○ 蹴合之事馳ノ内ニテ拍子遠赤シタ

ルキ時手ト籠一度ニ蹴合棄ヘシ

○ 嵐ノ馬ニハ村雨ノ鞆ヲ用六目ノ鞆

ニ直リ手綱ヲ三拍子ニ棄也口傳多シ

○ 馬持ハ爪持也爪持ハ馬持也爪シ能持ハ徳

多シ如何程手綱シ能扱テモ爪惡敷ハ棄ヘカス

○ 馬ノ大事ハ隅ノ口ニ有序ノ内ノ序也口傳



川

三  
三九廿七方

川

富流宗師

日本武尊

迎車流

貞死親王

鹿島流

八幡太島

義家

六條判官

為義

湯山入道中原玄性

大坪流

大坪式部大輔廣秀

村上賀守

永章

斎藤備前守

国忠

斎藤安藝守

好玄

斎藤備後守

忠玄

斎藤斎宮頭

辰遠



丹州住僧了慶坊

斎藤永馬 辰光

大坪本流 斎藤主税 定易

久保田宗順 弘道

大坪

大坪



